

A、登園停止が必要な伝染病

	病名	潜伏期間	発熱	発疹	症状	登園停止期間のめやす	感染		対策	備考
							治療届	経路		
第一種	コレラ・赤痢・腸チフス					治療するまで	○			
第二種	インフルエンザ	1～3日	38℃～39℃		発熱・頭痛・筋肉痛・鼻水・咳・全身倦怠感・食欲低下	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで	○	飛沫	飛沫	処方薬を全部飲みきる
	百日咳	1～2週間	熱が出ることは少ない		最初は風症状と区別しにくい。咳がひどくなり、咳き込んだ後ヒューと笛を吹くような音を立てて息を吸い込む	特有な咳が消失するまで 抗菌薬を決められた期間服用するまで	○	飛沫	飛沫	
	麻疹(はしか)	約10日	38℃以上	全身に鮮紅色の小紅班から暗褐色のシミになる	咳・鼻水・眼の充血・目やになど。いったん熱が下がった後再び高熱が出て全身に発疹が出現しほおの内側に白く斑点ができる	解熱後3日経過するまで	○	飛沫 空気	空気	
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	2～3週間	38℃前後		耳下腺の腫れと痛み 片方だけの場合もある	耳下腺の腫れが消失するまで	○	飛沫	飛沫	
	風疹(三日ばしか)	2～3週間	軽度の熱～	全身に麻疹に似た細かい発疹	耳の後ろや首のリンパ腺が腫れる	発疹が消失するまで	○	飛沫	飛沫	妊娠初期の母親は注意
	水ぼうそう(水痘)	2～3週間	軽度～38℃	ポツポツと赤い発疹が顔や体に	水をもったぶつぶつがしだいにかさぶたに	すべての発疹が完全にかさぶたになるまで	○	接触 空気	空気 接触	かき傷による二次感染に注意
	咽頭結膜熱(プール熱)	3～7日	39℃前後		のどの痛み・咳・眼の充血・めやに	発熱・咽頭痛・結膜炎などの主症状が消えてから2日経過するまで	×	飛沫	飛沫 接触	
	結核	一様ではない	微熱		初期は微熱・咳・痰etc 症状が進むと血痰	医師が伝染の恐れがないと認めるまで	○			
第三種	腸管出血性大腸菌感染症(O-157)	4～8日			初めは軽い腹痛と下痢。何日かすると激しい腹痛と血便が出る	症状の消失かつ抗菌薬による治療が終了48時間をあけて連続2回の検便で陰性のが確認されるまで	○			無症状病原体保有者は出席停止の必要なし
	流行性結膜炎(はやり目)	数時間～7日			白目が赤く充血し、目やに、涙、眼瞼の腫れ	結膜炎の症状が消失するまで	○	接触	接触	

B、条件によって登園停止

第三種 その他	溶連菌感染症(しょうこう熱含)	1～7日	感染していても発熱がない場合も有	全身に細かい鮮紅色の発疹	のどの痛み 舌はイチゴのようにブツブツ赤くなる	受診当日、翌日は休んでください(感染力強い) その後、解熱し、全身状態良ければ当園可	×	飛沫	飛沫	腎炎・リウマチ熱の合併症を起こす事もあるので医師の指示があるまで薬を飲む事
	ウイルス性肝炎	4～7週間			倦怠感・食欲低下・発熱・腹痛・嘔吐・黄疸	主症状が消失し、肝機能が正常化したとき	×			B型、C型肝炎の無症状病原体保有者は停止の必要なし
	手足口病	2～6日	発熱する場合もあり	指・手のひら・足の裏・ほおの内側に水泡状の発疹		発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響があり 普段の食事が食べられない状態(解熱し、医師と相談した上で登園可)	×	飛沫 接触	標準	うがい、手あらいを励行
	ヘルパンギーナ	2～6日	38℃以上	のどの奥、扁桃に小水泡ができる	夏風邪の一種。突然の高熱に続く口のまわりのヘルペス様の水泡が特長	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響があり 普段の食事が食べられない状態	×	飛沫	標準	
	マイコプラズマ肺炎	1～3日			咳のひどい風邪	発熱や激しい咳が出ている状態(全身状態がよければ登園可)	×	飛沫	飛沫	
	流行性嘔吐下痢症(ノロ・ロタウイルス等)	2～4日	熱が出る事もある		突然の嘔吐、続いて下痢(クリーム色、乳幼児は白色便になる事もある)	嘔吐・下痢の症状が出ている間(嘔吐・下痢の症状が治まり普段の食事が食べられれば登園可)	×	経口	経口	

C、登園停止の必要が無いもの

	病名	潜伏期間	症状	プール	治療届		備考
第三種	あたまジラミ	気づくまでに1ヶ月位かかる事が多い	頭のかゆみや不快感。症状のない事が多い	当保育園では禁止	×		
	水いぼ		いぼがあるという以外には、症状はほとんどない 水泡内の液にウイルスが存在し細かい傷口から侵入して感染する	患部をすべて覆っている場合に限り、プールに入ることができる	×	接触	接触
	とびひ	2～10日	虫刺され、湿疹、けがなどがブドウ球菌溶連菌に感染し、化膿	主治医から可否をもらう(園の判断で中止することあり)	×	接触	接触